

人と繋がる

甘楽町立甘楽中学校

三年 高橋 季歩

「繋がり。」授業やCMでもよく耳にすると思いますが。皆さんは「繋がり」と聞いて、誰を思い浮かべますか。家族ですか。友達や先生でしょうか。それとも、先輩、後輩、地域の方ですか。人と人との繋がり生きていく上で必要不可欠なものです。しかし最近、私たちは人との繋がり薄くなっているのではないかと感じます。そう思うようになったきっかけは、ある漫画に書かれていた脳科学者の方のコメントでした。

「最近の子は、人との繋がり薄くなっているがゆえに『自分の周りに他の人がある』例えるなら天動説のような考え方になってしまっている。僕は『自分は自分だけど、社会の一員でもある』つまり、地動説のような考えになってほしい。」

私はハッとしました。確かに私も先生の言う「天動説」『自分中心の考え方だったかもしれないと。皆さんはどうでしょうか。』

もしも、世界中の人がこの自分中心の「天動説」の考えになってしまったら、私たちの繋がりは今よりも薄くなり、互いを思いやれず、全員が孤独を抱える寂しい世界になってしまいます。人との繋がりや孤独について、内閣府のアンケート結果では、「孤独を感じる」と回答した人は全体の半数近くを占めていました。また、二十代において「地域の繋がり強い」と回答した人はなんと、全体の20%でした。これは若い世代ほど人との繋がり薄くなり、孤独を感じる人が多い傾向にあるということです。ここで私は疑問に思いました。私たちが日々使っているSNSは何百、何千人と繋がることのできるはずですが。それなのになぜ、若い世代こそ繋がり薄くなり、孤独を感じているのでしょうか。SNSは、共通の趣味や価値観を持つ人と繋がれることが大きな特徴です。そのため、閉じた世界でしかコミュニケーションを取らなくなり、社会との繋がり希

薄化していたり、いつでも関係を切れるという心理から、深みのない繋がりになっていたりすると考えられます。簡単に繋がることのできる反面、相手を尊重する感情が薄れてしまったのではないでしょう。実際に私も、SNSで相手を傷つける攻撃的なコメントを見たことがあります。本来、相手のことを心から思いやることができれば、簡単に人を傷つけることはできないはずですよ。

私が、地動説の考えの大切さに改めて気づかされたのは、先日甘楽中学校で行われたスポーツ大会のことでした。私たちのクラスでは、長縄を跳ぶ時のルールとして、「引つかかった人を責めない」と各チームで決めました。何かあっても誰かを責めないことは、皆が優しい気持ちで、前向きに取り組む雰囲気作りには必要なことです。もしも自分が引つかかったときに、多くの人から責められてしまったら、心が苦しくなってしまうと思います。皆で取り組む学校行事の成功のカギは、地動説の考え方なのだと思います。たとえ長縄が上手くいかなくても、私たちは次の日も、同じメンバーで同じ教室で授業を受

けます。だから、何があってもお互いを思いやる、地動説の考えが大切なのです。

そうした相手を思いやる雰囲気作りは、実際に対面で話すことがないSNS上でも、心がけるべきです。自分が送ったコメントで、相手はどう感じ、どう傷つくか。他の多くの人に、どのような影響を与えてしまうのか。これからの社会を担う私たちの世代こそ、人との繋がりをもっと意識して、地動説の考え方をもち必要があると思います。社会の一員としての自分は、対面でも、画面越しでも、周囲の人のために何ができるのか。何をするべきではないのか。一人一人が意識を変えていけば、次第に「地動説」の考えになり、人との繋がりが深くなっていくはずです。

人との繋がりは人生を豊かなものにし、この世界をより良いものにしてくれます。皆さんも、もつと、人との繋がりを意識して生活してみてはいかがでしょうか。